

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品製造業

1. <福島県 菓子 >
昨年の状況からはやや好転している。地域クーポンなどがあった昨年同時期と比べれば人流は少ない。お土産市場はやや回復傾向にある。
2. <東京都 カレー粉 >
小売用の製品は売れているが、前年の反動がありそれほど伸びていない。緊急事態宣言が解除されても急な回復は望めない。原材料（包装資材含む）が高騰しており、収益が大きく悪化している。
3. <富山県 パン >
新型コロナウイルス感染症再拡大により経済活動が抑えられ、売上が減少した。社員食堂を廃止する企業が増え、影響を受けている。
4. <山口県 パン・菓子 >
9月も緊急事態宣言の延長によるイベントの中止が相次ぎ、売上が激減し、依然厳しい状況が続いている。10月からは小麦など原料の値上げも予定されており、今後も厳しい状況が予想される。
5. <香川県 製粉製麺 >
10月期の輸入小麦政府売渡価格が前期（令和3年4月期）と比較して19.0%の大幅な引き上げとなった。今後、業務用小麦粉価格の上昇が見込まれる状況である。
6. <長崎県 麺類 >
全ての部門の売上で、前年同月比マイナスが続いており、この先が非常に不安である。また、原料費の高騰、特に小麦粉の価格が12年半ぶりの高値水準となっており、収益を悪化させている。

繊維・同製品製造業

7. <山形県 織物製成人女子服 >
呉服関係は地方への催事販売も増え経済活動は少しずつ動きが出ているが、東京周辺への出張は控えており、問屋、小売店、アパレルとの商談も進まず発注も厳しい状況が続いている。
8. <東京都 帆布製品 >
8月、9月共に昨年より売上が低下した。6月から4ヶ月連続の赤字となった。組合員の状況も同じで、大型物件は全くない。緊急事態宣言が解除されてもすぐに売上に反映されるか分からない。
9. <石川県 ねん糸等 >
売上高は減少、収益状況も厳しい。内需衣料（レグ）不振。生活様式の変化に伴う衣料用繊維需要は更に減少すると予想される。サステナブル関連の需要に期待する。
10. <和歌山県 その他の繊維製品 >
百貨店関係が引き続き芳しくない。また、綿糸の値段が1.5倍くらいで高止まりしており、見込みで買うことができず、様子見の状態が続いている。中国次第のところがあり先行きは不透明。
11. <徳島県 縫製 >
コロナが一旦落ち着く気配が感じられるせいか繊維業界は、2021年予測では持ち直し傾向にあるという風潮はあり、県内でも業種に関わらず、景気回復への期待が膨らんでいる。
12. <沖縄県 繊維・同製品 >
緊急事態宣言が長期化し、観光客の需要の落ち込みが目立つ。また、大手量販店の営業時間短縮により県内需要も伸び悩んでおり、一時的に在庫が増加している。

木材・木製品製造業

13. <北海道 一般製材 >
原木集荷困難なことから、買入れ単価が上昇。併せて、製剤販売価格の値上げを下半期から依頼している。概ね状況を理解してもらい価格は了解いただいている。
14. <埼玉県 木材・木製品 >
9月は長雨が続き、製品のカビ対策、コロナ禍季節の変わり目での体調管理等、忙しい状況であった。原木は、2年前の台風で被災した作業道が復旧し、県造林の現場作業を再開できた。
15. <京都府 製材業・木製品 >
木材販売を担っていた組合員企業以外で、ホームセンター、プレカット工場などの流通形態が近年増えており、より効率化した経営が求められるが対応に苦慮している企業が増えている。

16. < 鳥 取 県 製材品 >
製材用素材の入荷量、製材品の生産量はともに前月比減少。合板の生産量も前月比で減少。製材品の動きはやや落ち着いてきた感があるが、製材品価格は依然として強い。
17. < 徳 島 県 製材 >
原木の量が少なく、材料の確保に困っている事業者が多い。製品の販売価格は上昇しているものの、年内は横ばいで推移するものと考えられる。
18. < 大 分 県 竹製品 >
昨年は、9月中旬より上昇（G○T○キャンペーンから12月初めまで、それまでのコロナ禍よりは良くなっていた）したが、それでも前年割れであった。今年はまだ底を打っている。

紙・紙加工品製造業

19. < 茨 城 県 段ボール >
売上は、青果物向け商品は良かったが、一般向け商品が悪く、前年同月比や前々年同月比でマイナスの組合員が多い。糊やインク等の副資材が値上がりし、粗利が徐々に減ってきている。
20. < 東 京 都 紙加工品 >
オリンピックパラリンピックが終了した途端に荷動きが低迷し始めた。この先の景況が危ぶまれていたが緊急事態宣言の解除により経済活動が回復する期待感がある。
21. < 福 井 県 和紙工業 >
輸入原料の輸送コストの上昇により、主要原料が未曾有の価格高騰となっている。品薄で確保すら難しく、生産状況を悪化させ、経営は逼迫している。組合員が取引先に対し値上交渉に入った。
22. < 愛 知 県 段ボール >
9月度は段ボールメーカーの平均稼働日数は20日で前年と同日。飲料関係は生産調整局面となり、前年を下回った。青果物関係は、大雨など天候不順の影響を受け、低調な荷動きとなった。
23. < 大 阪 府 古紙収集加工 >
コロナ禍の中、テレワーク等により紙の消費が減っており古紙の発生は減少しているが、段ボール古紙は対前年で見ると僅かながら増加している。
24. < 高 知 県 機械すき和紙 >
新型コロナウイルスの影響と夏場の不需要期が重なり、9月も低調に推移した。10月に入り、感染者が急激に減少している為、“人流”が回復し需要が戻ることを期待している。

印刷

25. < 福 島 県 印刷・同関連 >
新型コロナウイルス対策感染者の減少により、今後のイベントや大会等の開催が見込まれるようになった。印刷物の需要も徐々に回復に向かいつつある。
26. < 山 梨 県 印刷・同関連 >
リモート勤務の普及やイベントの中止から印刷物の需要が少なく、昨年同様に厳しい状況が続いており今後も続いていくと考えている。新型コロナウイルスが収束しても以前の状態には戻らない。
27. < 岐 阜 県 印刷 >
緊急事態宣言によるイベントの中止、飲食店の営業自粛の影響でチラシなどが引き続き減少し、組合員からは昨年より状況が悪いとの声が多い。
28. < 大 阪 府 シール >
食品工業医薬品関係の受注は堅調で推移しているが、衣料は依然として低迷している。原紙メーカーから印刷原紙の値上げ要請がきており、今後の動きが注目されている。
29. < 岡 山 県 出版・印刷 >
業績については、前年並みに回復している。但し、新型コロナウイルス感染症の影響は、宣伝媒体の変化をもたらしており、アフターコロナ対策が急務といえる。
30. < 宮 崎 県 印刷・同関連 >
新型コロナウイルス感染症が長期化し、デジタル化へシフト速度が速まっていると考えられるが、事業転換など早々にできるものでもなく、旧態の印刷企業においては、さらに難しいと考える。

化学・ゴム

31. < 東 京 都 ゴム製品 >
半導体不足の影響及び東南アジアのロックダウンによる影響で自動車関連の需要が深刻化している。今年度中には回復せず、厳しさが増すことが予想される。
32. < 長 野 県 プラスチック製品 >
8月は先月同様成形品の受注回復により、売上は昨年同期を上回る結果となった。金型販売についても前年同期を上回り、全体売上において前年を上回ることになった。

33. <愛知県 高圧ガス >
輸送機器向けはトヨタの減産により出荷減となり、コロナ禍での営業自粛で飲食業向けも出荷減が続いている。出荷先の好不況が直接組合員の実績に反映され、会員間での格差が大きい。
34. <大阪府 石鹼洗剤 >
手洗用液体石鹼や塩素系漂白剤はコロナ特需の反動が大きく、前年同期比は70~80%となっているが、合成洗剤は各品目とも前年を上回って堅調に推移している。
35. <島根県 プラスチック製品 >
引き続き業種によるバラつきはあるものの、全体的に好調に推移している。材料の入手は完全に生産が止まっている部分もあるが、回復しているモノが多く、総合的には改善している。
36. <広島県 プラスチック製品 >
コロナ禍で半導体や自動車部品が不足している。自動車の減産により売上は大幅に減少の傾向にある。生産設備の稼働は、断続的で生産効率は悪くなっている。

窯業・土石製品製造業

37. <山形県 コンクリート製品 >
諸資材原材料の相次ぐ値上げが続き、資材調達が困難となり、また、刊行物掲載のコンクリート製品関係価格が上昇しないため製品価格への転嫁もできず苦しい経営状況である。
38. <長野県 セメント同製品 >
売上高は前年同月比88.8%であった。現況としては、国県関連の土木工事発注は順調に推移している反面、公共建築工事発注は低調のまま推移している。
39. <愛知県 陶器瓦 >
9月の生産は前年比115%、販売は前年比99%であった。昨年も悪かったが、燃料が安く何とか凌いでいたが、今年に入り燃料価格が上昇し、かなり厳しい状況が続いている。
40. <滋賀県 陶器製品 >
陶土及び釉薬の動きは、小口の個人需要は回復しているものの、大口の製陶所向けについては動きが鈍く、悪かった前年を少し上回る程度の売上となった。
41. <愛媛県 石材加工 >
9月は彼岸需要もあり、そこそこの実績があった。全体的に底打ち感があり悪いなりに実需が整いつつある。もう少し事業者の整理が進みそうで、本当に頑張っている事業者が生き残ると考える。
42. <佐賀県 陶土製造販売 >
9月の陶土共同販売高は、対前年同月比123.0%、対前月比113.8%、対前々年同月比93.6%、対前年度上半期比130.6%、対前々年度上半期比91.4%で推移した。

鉄鋼・金属製造業

43. <青森県 鉄鋼 >
工場平均稼働率と手持工事量は引続き横ばい。見積依頼物件数が9月は全体的に減少傾向で、特に地元の中小物件が少なかった。春先から鋼材の入手が難しくなり、経営環境が悪化している。
44. <新潟県 ハウスウェア >
家庭用雑貨に一服感が見られたが、アウトドア用品については堅調な動きが続いている。また、材料価格の高騰で組合員企業も価格転嫁交渉を行っている。
45. <岐阜県 金属製品内需 >
コロナ禍の影響は製造業にとって最悪の状況である。刃物製造メーカー国内向け、同輸出向け、自動車関連、金属製品加工業は売上、収益共に横ばいで、機械製造向け材料は減少している。
46. <滋賀県 機械部分品 >
受注量は増加傾向にあり、徐々に好転に向かっている。原材料が高騰しており、下期に向けて、5~15%の単価値上げを実施した組合企業が数社あった。
47. <和歌山県 金属製品 >
材料仕入のある組合員事業所は、全体的に材料、部品の供給が滞っていて困っている。また、一部材料、部品の供給不足により、製品を完成出来ず、材料、部品と共に在庫が増大している。
48. <大分県 鉄鋼 >
コロナ禍の中ではあるが、徐々に経済の動きがみられる。受注案件も前年に比べると受注額が大きい案件が増加傾向にある。人材難と、材料価格高騰が収益を大きく圧迫している。

一般機器製造業

49. <岩手県 一般機械器具 >
納期不順による一部仕入れ材の手配困難、及び販売価格への転嫁が困難な仕入価格上昇により収益が圧迫されてきている。

50. < 埼玉県 一般機械機器 >
 工作機械半導体モーター関連は好況である。懸念材料としては鋼樹脂など材料の値上がりがある。コロナ前と比較して10~20%の売上ダウンである。
51. < 石川県 機械工作钣金加工 >
 9月の工作機械受注状況は前月比114.8、前年同月比171.9。受注額では2018年10月以降最高額である。好調に思えるが、原材料、入手が難しい制御機器部品、樹脂が日々高騰している。
52. < 奈良県 機械 >
 機械金属業界に大きな影響がある大手自動車メーカーの半導体不足等による度重なる減産により、自動車部品関連は、大幅に受注減となり、また、材料費高騰により収益悪化が続いている。
53. < 愛媛県 鉄工 >
 鉄板等の原材料は値上がりが続いている。ガソリン等の油脂も上がっているため輸送費も上昇傾向。値上がり分の製品の転嫁は進んでいない現状では収益性が徐々に悪化することが予想される。
54. < 福岡県 一般機械器具 >
 客先が手配方法を色々変えるため、出荷量（1日分）の変動が大きくトラックの満車率が悪くなり、輸送費ロスが大きい。短納期品があるため、週2回程度残業がある。

電気機器製造業

55. < 山梨県 電気機械器具 >
 半導体製造関連の受注は好調。一方、アルミや銅、ステンレスなどの材料費が値上がりしているが、製品価格に転嫁できず収益は昨年同月と比べ15%悪化した。
56. < 長野県 電子機械器具 >
 コロナ禍により例会や行事が中止。業況は全般的に売上高が上昇傾向だが、原材料の入荷が不足気味である。雇用は逼迫傾向にある。
57. < 静岡県 電気機械器具 >
 半導体不足に加え、東南アジアでの新型コロナウイルス感染拡大対策であるロックダウンにより日本向けの部品供給に問題が発生しており、今後さらに拡大することが予想されている。
58. < 広島県 電気機械器具 >
 今月の売上は前月比3%増加、前年同月比10%減少となった。半導体生産、工作機械市場等の回復が売上増加の要因だが、やや足踏み状態。年次での減少は出荷時期によるものである。
59. < 佐賀県 電気機械器具 >
 全業種共に原材料の高騰により利益が大幅に減少している。値上げが出来たお客様もいるが、他は現状維持のところが多いようである。
60. < 長崎県 電気機器 >
 コロナ禍で既に受注が減少していることから、今後の売上減少は避けられない。新型コロナウイルス感染症の罹患者増加、ワクチン接種の滞り等があり、耐える1年が続くと思われる。

輸送用機器製造業

61. < 群馬県 自動車・同附属品 >
 売上は増加したものの、鋼材の価格上昇を転嫁しきれないため収益状況は悪化した。鋼材の品薄状態は解消されているように感じる。
62. < 静岡県 輸送用機械器具 >
 今夏の東南アジア（特にマレーシアとベトナム）の操業規制の影響で、感染状況は減少に転じたものの、従来の操業状態には戻っておらず、減産に繋がっている。
63. < 三重県 鈴鹿 >
 この数ヶ月間、自動車メーカーの一部では部品の供給不足で生産調整を余儀なくされているが、当月はやや持ち直しているようだ。一方、モノの不足感からか資材の値上がりが相次いでいる。
64. < 兵庫県 輸送用機器 >
 売上高は前月比26.8%、前年同月比でも26.9%減少である。部門毎の対前月比では、船舶部門38.8%、機械部門22.2%、プラント環境部門72.4%、精密機械部門7.6%全ての部門で減少となった。
65. < 山口県 鉄道車輛・同部品 >
 鉄道車両関係の受注は国内業者の2~3年後の新車両計画も不透明で、海外でも生産予定はあるものの、世界的なコロナ禍の状況により確かな見通しが立たない。半導体は、引き続き好調。
66. < 香川県 造船 >
 前月と同じく業況は変化がない。人員も仕事量も大きな変化はなく、低調に推移している。

その他の製造業

67. < 秋 田 県 漆器 >
蒔絵沈金の加飾体験を実施している。9月の修学旅行や現地に出張しての体験が新型コロナウイルスの影響で、中止や延期となったものが数件あった。
68. < 千 葉 県 採石 >
新海面処分場工事での石材搬入で、今月は前月を上回ったが、前年同月比では下回り、前年比では79%の状況である。
69. < 神 奈 川 県 工業中心の複合業種 >
全体的でも、徐々に問合せや見積もりの相談が増えてきているが、先が見えない状況が続いている。高齢者一人の事業所や小さな飲食店に廃業が出始めている。
70. < 福 井 県 眼鏡工業 >
米国経済の急回復に併せ国内も回復基調にあるものの、小売店サイドは消費回復の様子見しており、発注ロットが小さいため、操業度は上がったものの、製造コスト負担が大きくなっている。
71. < 奈 良 県 毛皮革 >
毛皮加工は、今シーズンの注文が入り始めている。年々、注文が少なくなってきており、直接消費者に販売できる新製品の開発等が重要。毛皮なめしは、このままでは事業継続も厳しい状態。
72. < 香 川 県 漆器 >
コロナ影響による催事の中止や売り場の縮小は相変わらず続く。漆器素材である木材は外国材、国内材どちらも高騰しており、今後、製品価格の値上げが必要となるが今の状況では大変難しい。

《非製造業》

卸売業

73. <宮城県 再生資源 >
下落基調を辿った国内鉄スクラップ相場は、9月後半に入ると西日本を中心に上昇に転じた。10月以降も内需は旺盛で、国内相場は今後も高値圏での推移が予想される。
74. <千葉県 総合 >
従来より低い水準であるが、底を打ち安定してきている。昨年コロナ特需で売上が増加した一部組合員（衛生資材）について、昨年対比で売上が減少しており、組合員全般的に減収傾向にある。
75. <新潟県 青果物 >
蔬菜、果実共に単価高の為、売上は増加。端境期や春の霜害の影響による品不足の為、中央の市場へ荷物と需要が比較的集中しているため、各社在庫が少なく卸からの買上も増加している。
76. <岡山県 機械・工具 >
コロナ禍による事業縮小や廃止、建築時期の延期等から、来年以降の先行きは見通せず、今後、見積り件数の減少が予想される。また、仕入価格高騰等から更なる競争の激化が予想される。
77. <高知県 各種商品卸売団地 >
海外での生産が不安定で、納期遅れが増えている。コロナ感染者は減ってきているが、消費者の購買意欲は低下したままであり、景気回復は感じられず、安心できる状態ではない。
78. <福岡県 古紙 >
古紙在庫がひっ迫している。古紙の発生が低調という事もあるが、海外からのオファーが多くあり、動きが活発になっている。少なくとも年内はこの状況が続くと思われる。

小売業

79. <北海道 燃料 >
原油価格は前月末から上昇を続け、更なる上昇も懸念されている。SSの販売価格は高止まりの状況で、安値市況が続く一部激戦地では地場中小零細企業の経営は厳しい状況となっている。
80. <秋田県 花卉 >
昨年は持続化給付金や国からの支援補助事業などでマイナスを多少補うことができたが、今年度は持続化給付金が無い分、厳しい状況が続いている。
81. <東京都 中古自動車 >
小売は中古車の需要が好調であるものの深刻な在庫不足で販売につながらない。新車の長納期化による下取り車の在庫減からか展示車両が減少しており、例年並みとなるにはもう暫くかかる。
82. <岐阜県 家電機器販売 >
寒暖の差が激しかったため商品の動きは鈍かった。エアコン等の動きは前月と変わらず良くなかった。昨年の特別定額給付金支給でテレビ、エアコンの販売が好調であった反動かと思われる。
83. <和歌山県 燃料 >
原油輸入価格が徐々に上昇する一方で、一部廉売業者の影響により仕入れ価格上昇分の価格転嫁が進まず、加えてガソリン需要も低迷しており、SS業界の厳しい経営環境が続いている。
84. <宮崎県 たばこ販売 >
4年連続の値上げとなる10月からのたばこ価格改定を控え、小売店では自動販売機の価格表示の変更や新500円硬貨導入への今後の対応など、慌ただしい日々が続いている。

商店街

85. <秋田県 商店街 >
9月組合員企業の売上高は百貨店で前年比95%、その他テナントは60%である。激減した前年売上との対比であることを考慮すると、景況回復の実感はまだない。
86. <神奈川県 商店街 >
9月期は緊急事態宣言が再延長され、行政よりの外出自粛要請が強くあり、来街者が更に減少し、非常に厳しい状況が続いている。緊急事態宣言が解除となった10月から集客アップを図りたい。
87. <京都府 商店街 >
緊急事態宣言が出ているにもかかわらず人流は次第に増加しつつある。特に、日曜、祭日は以前の人通りと変わらないくらい多い。しかし、店内で賑わっているのは飲食関係くらいようだ。
88. <香川県 商店街 >
8～9月にかけての感染拡大の猛威の爪痕は深く、感染者数が減少しても商店街への人通りの回復は従来より鈍い。ここ数ヶ月で消費者の行動自粛の習慣は更に浸透してしまったと思われる。

89. < 高 知 県 商店街 >
 シルバーウィーク頃から観光客が増えてきた。食事をしてからお酒が飲める店への流れも少し出てきたようである。感染症対策を守りながらの小さなイベント等も控えめながら計画中である。
90. < 沖 縄 県 商店街 >
 9月のシルバーウィーク中の人出は、昨年比で約50%減少。緊急事態宣言下で、時短営業や休業など制約を強いられている国際通り店舗からは、県の対処方針の限界を厳しく指摘する声もある。

サービス業

91. < 青 森 県 旅館 >
 宿泊は先月比、ビジネス客観光客共に相当な減少。第5波の影響が大きい。移動自粛で厳しい状況は変わらない。新型コロナの収束が見えず、死活問題になりかねない状況が続いている。
92. < 山 形 県 情報処理サービス >
 コロナが多少落ち着いて企業側も前向きな意識が出てきたのか、WEB絡みの案件が少しずつ増加傾向に向かっているように感じる。
93. < 山 梨 県 理容・美容 >
 昨年度は政策金融公庫の融資制度を利用し新規創業する若い経営者はほとんどいなかったが、今年度は少しずつ増加の傾向にある。
94. < 滋 賀 県 旅館・ホテル >
 緊急事態宣言が続く、各施設や取引業者は大変苦しい状況が続く。昨年はGOTOトラベルで一時的に盛り上がりがあったが、今年は昨年借り入れた融資が底をついてしまうという相談も出ている。
95. < 京 都 府 旅館・ホテル >
 9月末まで続いた緊急事態宣言の下、全ての団体旅行、特に修学旅行は予定変更とキャンセルで全滅状況であった。緊急事態宣言が解除される10月からに期待している。
96. < 鹿 児 島 県 測量設計 >
 災害等の業務が多く発注されており、どの業者も忙しく手が回らない状況が続いている。資金繰りについては、金融機関からの提案も多く、状況は好転しているように感じる。

建設業

97. < 福 島 県 建設 >
 公共土木工事は、国土強靱化予算により、河道掘削等の工事が多く発注されている。建築工事は公共民間ともに低調で減少している。
98. < 茨 城 県 総合 >
 土木工事は発注が盛んである。前年度は建築工事に多くの予算が配分されたが、今年は逆となり、土木会社は繁忙、建築会社は仕事が薄い状態となった。
99. < 埼 玉 県 内装工事 >
 組合が発行している防火壁装ラベルの売上げは、昨年9月に比べ3割程の増加である。組合員の業況は目立った改善は見られず、先行きの不安定感は大い。
100. < 福 井 県 管工事 >
 市発注の工事に関して、人員がいないため入札への参加を辞退したいという組合員が出てきた。新規の雇用が難しく、現場代理人の配置などが困難となっている。
101. < 奈 良 県 鉄構 >
 鉄工関連業界全体で、年末～来年の見積もり物件は増えるも、鋼材の高騰品薄が続く鋼材価格の値上がり、さらに鋼材（鋼板ボルトコラム等）の手配難で、大変深刻な状況となっている。
102. < 宮 崎 県 管工事業 >
 鋳鉄管水道管資材のメーカー3社による価格改定通知があり、8月及び10月受注分より10～15%の引上げとなった。組合員事業者の経営に大きな影響を及ぼすものである。

運輸業

103. < 北 海 道 一般貨物自動車 >
 農産物の取扱いは、前月比微増も昨年より落ち込んでいる。水産物も太平洋沿岸の赤潮も影響により落ち込んでいる。日用雑貨品についても、荷動きはよくない。
104. < 青 森 県 貨物軽自動車 >
 9月の業況は昨年同月より1割減。引越関係の依頼は若干増えているが、緊急配送の依頼が減っている。ワクチン接種率が高くなり、ようやく10月以降の観光関係の予約が入ってきている。
105. < 群 馬 県 一般貨物自動車 >
 燃料価格が上がり収益を圧迫した。10月も上昇するとの情報が入っており、経営に与える影響を懸念している。また、帰り荷の運賃が落ち込んでおり、庸車の手配にも苦慮する状況。

106. < 岐 阜 県 貨物運送 >
自動車業界の減産に伴い、自動車メーカーへの輸送は激減。しかしながら、部品メーカーは減産後の回復増産へ対応するため部品製造備蓄を行う客先も多く、企業間輸送は組合員間で差が出た。
107. < 鳥 取 県 貨物運送 >
半導体の供給不足があらゆる業種の生産、出荷に影響を及ぼしており、往路復路ともに9月中旬頃より待機車、空車回送も見受けられるようになってきた。
108. < 熊 本 県 沿海海運 >
9月は鋼材船を中心に荷動きが良く、前月前年ともに好転している。用船料も通常時の水準までではないが、上がってきている。

その他の非製造業

109. < 宮 城 県 不動産 >
緊急事態宣言及びまん延防止等重点処置の発出により、今秋の人事異動を取り止めた法人が多く、単身用賃貸マンションの引き合いは少なくなった。
110. < 栃 木 県 採石 >
地域内に、新たな集客施設がオープンしたことから、波及効果として周辺店舗にもお客様が流れるようになった。
111. < 新 潟 県 砂利採取 >
令和3年9月度の骨材生産量は前年同月比104.2%、1月～9月の累計は前年比98.3%であり、ほぼ昨年の業況まで回復してきている。コロナ禍収束に向け第3四半期の需要回復に期待したい。
112. < 富 山 県 不動産取引 >
基準地価は、29年連続で下落。用途別で商業地は、▲0.4%で2年連続の下落。住宅地は、▲0.5%で24年連続の下落となった。
113. < 兵 庫 県 物品賃貸 >
リネン（タオル）資材の供給商社の一社が、ホテルリネンの稼働率長期低下を受けて、事実上倒産するなど、状況は落ち着かない。
114. < 岡 山 県 信用組合 >
9月に入りコロナウイルスの影響が徐々に緩和しつつあるが、資金繰り等は厳しい状況にある。アフターコロナに向けた資金に対応する為、組合員にヒアリングを行い手厚い支援を行った。